

「印象操作はやめてください」。参院選に向けて開かれた主要政党の党首討論会で、自民党総裁の安倍晋三首相はこう言った。選択的夫婦別姓などへの賛否を聞かれた時のことだ。賛成の挙手をしなかった自

分が目立ち、いらだったようだ。しかし、「やめて」というわりに、安倍氏自身が印象操作としか思えない発言を繰り返している。少し、勝手すぎませんか。

(片山夏子、佐藤直子)



「選択的夫婦別姓を認める」の質問に対し、一人だけ挙手しなかった安倍晋三首相(中央)＝3日、東京都千代田区の日本記者クラブで

# 印象

## 「やめて」と言うけど首相、やってませんか?

# 操作

討論会は日本記者クラブ主催で、参院選公示の前日、三日に開かれた。二時間の討論会の最終盤、安倍氏は語り始めた。

「単純化してショーミたいにするのはやめた方がいい。イエスカノーということでは政治はないですから。今の段階で答えられなくてもただちにノーではない。あまり印象操作するのはやめてもらいたい。何か意図を感じるんですけど」

この時、さまざまな課題について記者側が質問。出席した七党首に挙手で賛否を示すよう求めていた。原発新増設や選択的夫婦別姓では安倍氏だけが手を挙げなかった。どうやら、分かりやすくイエス、ノーを聞く手法がお気に召さなかったようだ。

これが印象操作なのか疑問はあるが、「やめて」というのに安倍氏は印象操作としか思えない発言を繰り返している。

## 「民主政権で混迷」「汚染水は制御下」

「民主党政権の枝野さん」。選挙戦が始まってからは、このフレーズが安倍氏のお気に入りだ。七日は演説した六カ所すべてで「言い間違ひ」をした。

これは少し悪質だ。今回の選挙で「民主」は国民民主党の略称で、枝野幸男氏が代表を務める立憲民主党は「立憲」だからだ。枝野氏は「一種の選挙妨害だ」と批判した。

振り返ると、印象操作はまだまだある。

「悪夢のような民主党政権」。安倍氏は二月の自民党大会でこう言った。五月の二階派のパーティーでも「民主党政権が誕生し、混迷を極めた。悪夢が舞い戻ることのないよう参院選に勝ち抜く」と述べた。

二〇一三年九月、安倍氏は東京五輪招致のプレゼンテーションに立った。東京電力福島第一原発の汚染水問題に触れ、「汚染水の影響は原発の港湾内〇・三平方キロ以内で、完全にブロックされている」「状況はコントロールされている」と強調した。しかし当時、港湾内の水は一日でその半分が外洋へと出ている状態。「完全にブロック」とは程遠かった。

また、安倍氏は経済政策「アベノミクス」の成果として、労働者の賃金アップを強調していた。ところが、その根拠だった毎月勤労統計調査では、調査方法の不正が発覚した。

裁量労働制拡大の議論でも誤った答弁をしていた。安倍氏は、裁量労働で働く人の労働時間は一般の労働者よりも短いとのデータもあると説明していた。ところが、後にデータの間違いが分かり、安倍氏は答弁を撤回した。連合の神津里季生会長は「印象操作のような答弁をつくらなければ極めて重い」と批判した。

森友学園の国有地取引を巡る問題では「私と妻が関与していたら、首相も国会議員も辞める」と大見えを切った潔白を印象づけようとした。が、その後に「贈収賄ではない」などと関与の意味合いを狭めた。昨年五月、森友学園への国有地売却に関する財務省の交渉記録や防衛省のイラク日報隠蔽問題についての調査報告を同じ日に発表。野党から「一つ一つの国民への悪印象を薄めようという印象操作だ」と批判された。

ちろ特報部

# ごまかしやうそ 議論逃げ空回り

を振り返ったが、過去の政治家も同じようなことをやっていた。多くの識者が真っ先に名前を挙げるのが小泉純一郎元首相だ。

行革の本丸とした郵政民営化に反対する勢力を「抵抗勢力」と悪人のように呼んで批判。〇五年、郵政民営化の賛否を問うと、衆院の解散総選挙に打って出た。民営化に反対する自民議員の選挙区に「刺客」と呼んだ対立候補を擁立。与党で三分の二を超える圧勝となった。

政策を単純化し、ワンフレーズで語る政治スタイルは「小泉劇場」といわれた。ライオンヘアを下レードマークに、写真集も出すなど、自らの演出にも余念がなかった。

印象操作は与党の専売特許ではない。野党でもしばしば指摘されることがある。が、地位のせいなの



印象操作といえば、まず名前が挙がる小泉純一郎元首相。2005年8月30日、東京都内で

## 最近 は 著名人も活用

# 事実チエックで見極めを

か、それとも稚拙だからか。なぜか安倍氏の発言がやり玉に挙がる。

「小泉さんはわかりやすさで世間に受けた。しかし、安倍さんの場合は、明らかにならざるごまかしがある。統計不正問題で追及されたように、都合のいいところだけを取り出し、自身の成果であるように語って

みせたりする。雇用が増えた、税収が増えた、と、成果を断片的に語るばかりで、野党から追及を受けると議論から逃げてしまつ」

元電通マンで長野県中川村の元村長曾我逸郎氏は、安倍氏の印象操作の特徴をこう説明する。

曾我氏は「言ってしまうばこっちのモンだつて感じ。言つたモン勝ち。そういうやり方を、安倍さんは道徳的に恥ずかしいとか、間違っているかも、なんて思わない」と嘆く。

ITジャーナリストの井上トシユキ氏は「安倍さんの印象操作は、どうも空回りしている」とみる。

自身に好意的なテレビ番組への出演を繰り返す安倍氏は、会員制交流サイト

(SNS)も多用する。

「政治家がSNSを使うのは支持者向けで、トランプ

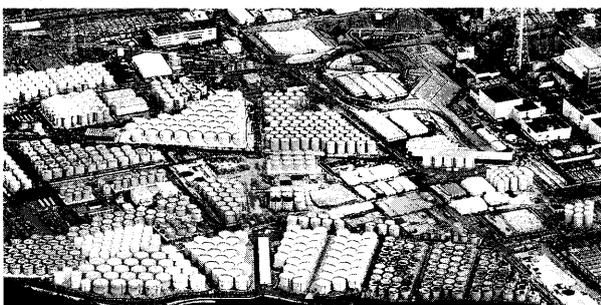
米大統領が典型例。その世界はたこぼなので、違つ考え方の人が入りにくい。味方にしゃべるならいいが、世間一般には伝わらない」。井上氏は「安倍氏の空回りを説明する。

しかし、最近少し状況が変わってきた。「インフルエンサー」と呼ばれる、影響力の大きい著名人を活用し、安倍氏が印象操作をしようとしている。井上氏はこうみている。

「十代、二十代で政治家のSNSをフォローしている人はほとんどいない。若い人に支持を広げるには、影響力のある人に発信してもらえばいいと気付いたの

か、党の広告に人気モデルを使つたり、自ら大阪の吉本新喜劇の舞台に出たりした。メディアで発信するアイドルや芸人のイメージや影響力を借りようとしているよつだ」

印象操作の先には何があるのか。ジャーナリストの田原総一郎氏は「本質は、自衛隊を戦える軍隊にする



タンクが林立する福島第一原発構内。汚染水はコントロール下なのか。1月10日、福島県大熊町で、本社へ「おおつる」から

では困る。有権者はどうしたらいいのか。

曾我氏は「ファクト(事実) チェックの動きがある。沖縄知事選で行われたのが好例だ。誰がどういう立場でその発言をしているのか、一方だけでなく両論を聞いて、事実を確認したい。メディアが流す情報も、どのシーンを切り取るかによって情報の印象は違つてしまつ。有権者には注意識深く接してもらいたい」と語った。

### チェックメモ

印象操作だけでは足りない。改憲議論に応じないと野党を批判し、発言中にヤジが飛ぶと、静かにするよう求める。そんな安倍氏が、議論を避け、質問をはぐらかし、国会でヤジを飛ばす。特大プーメランを投げるのはやめて、まずは範を垂れてもらいたい。行政のトップなのだから。(裕)